

失踪原因の調査解明に協力を

平成4年に失踪した北秋田市三里（旧合川町）の会社員、松橋恵美子さん（当時26歳）の両親と北朝鮮による拉致疑惑を解明する秋田県民の会の福岡博代表が7月4日、岸部市長を訪ね、新市となった以降も引き続き失踪原因の調査解明と政府未認定の特定失踪者支援自治体ネットワークによる支援について理解と要請を求めました。

恵美子さんは平成4年1月15日朝、祖母に「鷹巣に行くてくる」と言い残したまま消息がわからなくなっており、18日能代市落合浜で財布や化粧品、防寒着など身の回り品が残されたままの車が発見されています。

現在、北朝鮮による拉致事件の政府認定の16人と特定失踪者問題調査会の440を越える失踪者の家族が、拉致の可能性もすべて排除できないとして登録されています。

政府未認定の特定失踪者の家族は、時間の経過と共に捜査機関による真相解明が困難になるなか、唯一民間の善意でおこなっている特定失踪者問題調査会に委ねるほか術がないのが実情。

このようなことから、特定

失踪者の身近な自治体が相互に連携し、家族の支援を全国の関係自治体に呼びかけることにより、失踪者家族、自治体、国の関係機関の一体化がすすみ事態の進展が期待されるところとして、政府未認定の特定



趣意書を岸部市長に手渡す松橋夫妻

失踪者支援自治体ネットワークによる支援を要請しました。趣意書には「日常生活の中での非日常が私たちの身のまわりで、何の前触れもなく降りかかる。それも今朝まで一緒に暮らしていたかけがえのない家族が突然失踪し、消息につながる一切の手がかりを掴めないまま、時間だけが非情に過ぎる艱難の日々を、他者によって強いられる現実と私たちは一体どう向かいあつたらいいのでしょうか。世間に気兼ねし、苦悩に満ちた生活に耐える特定失踪者の家族は、時に長短の別なく現在も失踪者本人の戸籍を保有し、失踪当時の延長線上にあります。寄る年波と共に老いてゆく親や失踪原因の解明に伴う生活負担のことを思うと、警察当局に捜査を委ねただ傍観しているだけでは、住民の生命と財産を守る使命を第一義とする地方自治体は、災害対策や事故防止と並ぶ危機管理の一環として、未だ真相解明の糸口すら見えない家族を支援する方策を打ち出さなければいけないのではないのでしょうか。北朝鮮に拉致された可能性

も全て排除できないとして、特定失踪者問題調査会に一縷の望みを託して調査を嘆願している家族は、今年7月1日現在全国で440家族にも及びます。特定失踪者支援自治体ネットワークは、人権と国家主権が侵されているかもしれない政府未認定の特定失踪者の調査解明にむけ全国の自治体に呼びかけ、相互が連携して協力関係を保ちながら支援活動を推進することを提唱します。」と記されています。



特定失踪者問題調査会公開リストを見入る岸部市長

支援する活動内容として、埋もれている情報の発掘、情報提供の呼びかけ

- ・ 失踪者家族の生活相談と激励
 - ・ 関係自治体間の情報交換と共有による調査力の強化
 - ・ 特定失踪者問題調査会及び捜査機関への協力
 - ・ 関係自治体の一体化により国内世論を喚起し、真相解明と救出にむけ強力にメッセージを内外に発信する
 - ・ 当該自治体へ財政支援の立法措置を講ずるよう国へ要請する
- とし、推進方法については、
- ・ 特定失踪者のいる自治体リストの作成と関係自治体への提案
 - ・ インターネット等通信手段による情報交換と分析
 - ・ 市町村から都道府県、関係各省へ調査解明を強力に要請する
- などと提唱しています。
- 恵美子さんのご両親は「いまだに進展がない。継続して協力をお願いしたい」、「このまま埋もれてしまつてはいけないと思い、再度お願いした」と悲痛な面持ちで岸部市長に訴えていました。